

1985.11

愛鳥教育

NO. 17

愛鳥教育研究会

巻頭言

盟友 田中完一先生を悼む

愛鳥教育研究会会長 田村 活三

宮城県志津川愛鳥会の産みの親であられる田中完一先生は去る7月8日亡くなられました。誠に哀悼にたえません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

先生は温厚篤実、すべてに研究熱心で、お医者さんとして医院を開業し、地方医療に貢献すると同時に非常に野鳥好きで、愛鳥精神に富み、昭和28年いち早く全く世間一般では鳥ともいわないうちに志津川愛鳥会を結成し、地元の青少年に探鳥を熱心に指導され、愛鳥精神を鼓吹されました。当時の野鳥誌に載った「志津川少年愛鳥隊」という言葉が今も私の脳裏に残っています。

先生は誠に愛鳥教育実践の大先覚者でありまして愛鳥の権化ともいうべき方でした。何としても世に貴重な先生を失い残念でなりません。

医療の傍、休日には青少年に探鳥を熱心に指導され、同時にご自分は他地方の探鳥会や施設見学視察にやぶさかではございませんでした。「野鳥の会全国大会」にも、「佛法僧と講演の会」にも吾が都下御岳山において下さったり、又信州旧中仙道の岡谷からの小鳥バスを視察されたり、すべてご自分の愛鳥会発展の熱意からでした。

地元においては結成5周年記念事業でしょう、大きな自然石で鳥塚の供養碑を「射たれし鳥も眠れ安すけく」と建立されました。これはすべて先生の博愛心の発露です。昭和42年8月志津川でシロハラクイナを確認したりされました。なお先生は昭和53年2月より野鳥の会の理事になられ私は監事で、理事会ではいつもご一緒でしたが、そういう際にも家の医院の手配は一切整えて手ぬかりなく、会が終わると多忙の時は飛行機で帰られるのでした。

実に世に得難い人を亡くしました。何としても残念です。然りといえども今は現にもどす術もありません。

田中先生のみ霊よ、乞い願はくは加陵頻伽(鳥)となって——加陵頻伽のなれなれし声今更に僅かなる雁の帰りゆく天路を聞けばなつかしや千鳥鷗の沖つ波、往くか帰るか春風の空に吹くまで懐かしや—天国に遊びませ。

今回は本誌に小塊雅之さんを通して貴重な先生のご遺稿をお寄せ頂きました。謹んで掲載させて頂きます。ありがとうございます。

NO.17 愛鳥教育

1985. 11

目次

巻頭言	田村活三	2
昭和60年度愛鳥教育研究会総会		
山階鳥類研究所にて開催		4
愛情豊かな子供を育てる愛鳥活動	板垣貞俊	6
総会に参加して	長屋昌治	7
総合に参加して	中山辰夫	8
中国遼寧省の愛鳥教育2、3の見聞	飯村 武	9
民間愛鳥教育の行方	田中完一 小塊雅之	12
静岡県支部発足のお知らせ		15
北海道支部総会のお知らせ・常務理事会報告		16
岡 董高氏に聞く	下田澄子	17
お知らせ		18
編集後記 その他		19

愛鳥教育 No.17

昭和60年11月15日

発行人 田村活三

発行所 愛鳥教育研究会

住 所 〒150東京都渋谷区宇田川町37-10

渋谷レジデンシャルオフィス405

(財)日本鳥類保護連盟内

電 話 東京03(465)8601

郵便振替 東京2-92041

制 作 かなえ書房

昭和60年度 愛鳥教育研究会総会

山階鳥類研究所にて開催

今年度の総会は、8月12日午後1:30～午後4:30山階鳥類研究所（千葉県我孫子市）にて開催されました。昨年、渋谷から我孫子市に引越した新しい山階鳥研の施設見学もかねてのこの会は、以下のようなプログラムで行なわれました。

1. 総会プログラム

- (1) 会長挨拶———（田村活三 会長）
- (2) 鳥類保護連盟挨拶———（柳沢紀夫）
- (3) 昭和59年度事業報告———（村口末弘）
- (4) 昭和59年度決算報告———（杉浦嘉雄）
- (5) 昭和60年度予算案
ならびに事業計画———（下田澄子）
- (6) 新たに選出される理事について（下田澄子）
- (7) 静岡支部会員代表挨拶——（渡辺研造）
- (8) 北海道支部会員代表挨拶（古川和多留）
- (9) 愛鳥教育実践記録の発表——（板垣貞俊）
- (10) 山階鳥類研究所見学にあたって
（山階鳥研資料室長 柿沢亮三）
- (11) 山階鳥類研究所見学（書庫・標本室）

2. 各挨拶より

田村会長からは、昨年の北海道支部、今年の、静岡支部の発足を大切な機会として土台のしっかりとした愛鳥研にしていきたいと述べられた。

柳沢連盟代表からは、保護思想が普及してきた今日、それをより充実させるためにも愛鳥研の強化が必要である。そのための会員増強を連盟は陰ながら応援したいと述べられた。

渡辺静岡支部会員代表からは、支部発足(8/6)の様子と、本部との連携を保ちながらその充実をはかりたいと述べられた。

古川北海道支部会員からは、本部との連携の重要性と、小学校はもちろんのこと幼稚園を対称にした愛鳥教育も大切であることを述べられた。

3. 昭和59年度事業報告

村口常務理事から[資料1]の項目が報告され

た。

4. 昭和59年度決算報告および監査報告

杉浦連盟愛鳥教育担当から[資料3]の項目が報告された。

5. 昭和60年度事業計画

下田常務理事から[資料2]の項目が提案された。資疑応答の後、全項目が諒承された。

6. 昭和60年度予算案

下田常務理事より、今般経費の多く（会誌印刷費）が連盟の援助により成りたっている現状であるので予算案としては組めていないこと、そこで全国約900の愛鳥モデル校にも今年度は直接会員になるようにはたらきかける等、会員増大に努力していきたいと述べられた。

7. 理事の新たな選出について

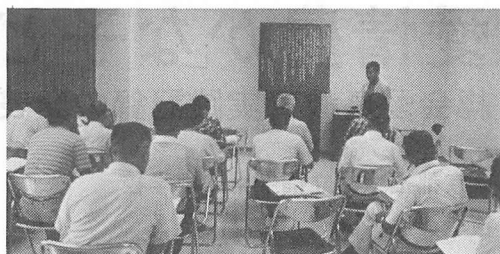
今年度は改選の年ではないので現役員は留任である。しかし、両支部の発足を機会に、両支部長を新理事に選出すべきではと提案があり、満場一致で確認をした。

8. 愛鳥教育実践記録、東京都福生五小の発表

昨年鳥獣保護実績発表大会で環境庁長官賞に輝いた福生五小の実践紹介。同校の板垣・栗原両先生に紹介して頂いた。詳しい内容は、6ページに掲載されています。

9. 山階鳥類研究所の施設見学

山階鳥研の柿沢亮三資料室長に案内して頂き約1時間程、書庫・標本室を見学した。特に標本室の貴重な剥製標本は印象深かった。詳しい内容は、7ページに掲載されています。



[資料1]

昭和59年度 愛鳥教育研究会事業報告

- ①「愛鳥教育」会誌発行12号(4月)、13号(8月) 14号(12月)
- ②総会 期日：昭和59年6月2日。場所：長野県八ヶ岳高原Y M C A野辺山センター。内容：昭和58年度事業報告および決算報告。昭和59年度役員改選について・事業計画
- ③研修会 1. 八ヶ岳小鳥の森(59年6月2～3日)
2. 箱根駒ヶ岳仙石原(59年8月8～9日)
3. 明治神宮探鳥会(60年1月27日)
- ④愛鳥週間ポスター審査委員会参加(59年9月20日)(審査委員：田村会長・下田常務理事)
- ⑤鳥獣保護実績発表大会審査委員会参加(59年10月9日)(田村会長・下田常務理事)
- ⑥愛鳥週間功労者選考会参加(60年3月27日)(田村会長・下田常務理事)
- ⑦愛鳥教育研究会北海道支部発足(昭60年1月26日)

[資料2]

昭和60年度 愛鳥教育研究会事業計画

- ①「愛鳥教育」の発行について……従来年3回から今年度は年4回の発行(4月・7月・11月・

3月)にし、内容もより充実させ、会員の増加をはかっていきたい。

「総会」「研修会」について……今年度は夏季研修会を鳥を観察しやすい6月に、6月の総会を8月に入れ替えて研修会の充実を図りたい。

- ②「総会」 期日：昭和60年8月12日(月)
会場：山階鳥類研究所
- ③「研修会」 1. 夏季研修会 昭和60年6月1・2日山中湖で実施。16号に報告があります。
2. 冬季研修会 昭和61年1月下旬あたりを予定。
※18ページに日程があります。
- ④「愛鳥活動実践例募集」について……愛鳥教育をより充実させるため、会員の皆さまから、「学校や地域の愛鳥活動の計画」または「学級やクラブの愛鳥活動の計画」あるいはそれらの実践状況、その他、子ども達の声、指導してお気づきになられたこと等をおよせ頂き会誌を通して広く紹介していきたく思っています。
- ⑤今年度は静岡支部が誕生しましたが(8月6日発足、なお、田村会長参加)、北海道・静岡両支部につづく各支部作りに協力していきたく思っています。(希望のあった会員校への指導者派遣等の交流)

単位：円

収 入		支 出		備 考
会 費	428,000	印刷費	796,000	
寄附金	8,000 370,000	通信費	64,130	発送費他
雑収入	3,450	雑 費	3,690	
研究会	347,100	研究会	347,100	6月八ヶ岳 8月箱根
利 息	10,921			
繰越金	67,070	繰越金	23,621	
計	1,234,541	計	1,234,541	

[資料3]

昭和59年度 愛鳥教育研究会決算

左記の通り報告致します。

昭和60年3月31日

会長 田村活三

会計 高橋早苗

監査の結果上記の通り相違ないことを認めます。

昭和60年4月5日

監事 江袋島吉

愛情豊かな子どもを育てる愛鳥活動

総会愛鳥教育実践記録の発表より

東京都福生市立福生第五小学校
板垣貞俊・栗原 仁

本校の開校は昭和44年4月1日であるが、愛鳥活動に関しては本年度で15年目を迎えた。現在は、「野鳥観察を通して自然を見つめる意識を高め、自然を大切にす愛情豊かな児童を育てる」ことを目標にすえ、実践を積み重ねている。次に、本校の愛鳥活動の歩みの凡そを説明しよう。

◎第一期（昭和44年～48年度）

＝愛鳥活動が始まる＝

- ・46年度 愛鳥クラブが誕生する。愛鳥壁新聞が発行される。
- ・47年2月5日 東京都知事により愛鳥モデル校に指定される。
- ・47年度 愛鳥研究部（職員）を発足させる。
- ・48年度 児童朝会で季節折々の野鳥についての解説を始める。
バードウィーク行事を行うようにした。
校内放送に「野鳥に関する質問コーナー」を設ける。

◎第二期（昭和49～53年度）

＝全校観察会が始まる＝

- ・49年度 全校観察会を秋・冬の2回実施することにする。
バードウィーク行事の充実を図る。
児童が自由に書きこめる図表の掲示・一口知識の展示・朝の野鳥の声の放送・昼の野鳥の話の放送・木曜日の愛鳥集会
- ・51年度 6年生の林間学校（富士山麓の精進湖畔）で高山の野鳥の観察ができるようになる。
PTAの会報名が「PTAだより」から「巣箱」に改称される。
- ・52年度 バードウィークの行事に全校観察会を加える。全校観察会は、春・秋・冬の3回となった。

◎第三期（昭和54年度～）

＝学年のめあての鳥を決める＝

- ・54年度 「学年のめあての野鳥」を決める。児童一人一人の観察ファイルを用意し、野鳥の観察を6年間積み重ねることにする。

- ・55年度 「野鳥の住みよい環境作り」を目指し、多摩川の川原の清掃を行うことにする。また、川原を利用する人々に呼びかける看板を作る。
 - ・56年度 愛鳥指導資料の整備に着手する。
愛鳥事前指導用ビデオの作製
 - ・57年度 6年生の観察ファイルに「6年間のまとめ」を加えることにする。
PTA会報「すばこ」に愛鳥関係の記事が載るようになる。
 - ・58年度 愛鳥日記（観察のための学級ノート）愛鳥コーナー・愛鳥文集・リレーはがきによる野鳥通信・学芸会への取り組み等の実践方法を研究する。愛鳥アンケートを実施し、児童の実態を調査した。
 - ・59年度 道徳授業に愛鳥関係の内容を取り入れ、実践する。
- ※以上の内容は、現在も引続いて実践している。

●学年のめあての鳥

	春	冬
1年	スズメ ヲソリ	コサギ
2年	ヒバリ ムクドリ	ハシロカラス ヒヨドリ
3年	セキセイインコ ヒヨドリ	トリカブト
4年	ササギ オカキ	カイツブリ
5年	セッカ キンクウ	イソギ
6年	オソリ	カワセミ

※54年度 学年のめあての鳥を決定する。

※55年度 カモを全学年に入れる（冬）。

1・2年 カモの識別

3・4年 カモの大小

5・6年 カモの種類・名前

※56年度 3年セキセイインコをヒヨドリに変える。

《以上の詳細は、昭和60年2月発行の同校研究紀要に述べられています。（連盟・杉浦）》

“山階鳥類研究所の施設見学メモ”より

山階鳥研の概要を柿沢資料室長から伺った後約1時間程施設見学をおこなった。まずは書庫。資料室の鶴見みや古さんに案内して頂く。さすがに蔵書数17,000冊の迫力に圧倒される。鶴見さんから「月刊雑誌は12冊分で1冊に数えています。」と聞いて、二度ビックリ！続いて標本室。資料室の石本あゆみさんに案内して頂く。トリあわせの結果は、トキ・シマフクロウ・ミュビゲラ・クマゲラ・キタタキ・ノグチゲラ・ヤンバルクイナ・カンムリツクシガモ……まさしく大スターぞろい

さらに、北米産の絶滅種リョコウバト・カロライナインコがそこに加わった。さらに大サービスして頂き、世界一小さなハチドリのお卵・世界一大きいダチョウのお卵・意外に美しいホワイトブルーのムクドリのお卵・チョコレート色のウグイスのお卵とこの托卵相手にそっくりなホトトギスのお卵。イメージ通りのホワイトブルーのコサギのお卵・茶色っぽいゴイサギのお卵…と、見せて頂く。トリタマゴあわせ(?)も、豪華絢爛で、参加者にとって本当に有意義な体験になった。

総会出席者名簿

田村活三（東京）	下田澄子（東京）	徳竹力男（東京）	岩渕成紀（宮城）
板垣貞俊（東京）	村口未弘（東京）	栗原 仁（東京）	望月和男（茨城）
杉村千恵子（東京）	古川和多留（北海道）	渡辺淳一（千葉）	淀 恵子（長野）
渡辺研造（静岡）	長屋昌治（東京）	柿沢亮三（山階鳥研）	柳沢紀夫（鳥類保護連盟）
杉田優児（東京）	中山辰夫（千葉）	杉浦嘉雄（鳥類保護連盟）	

総会に参加して

東京都世田谷区立松丘小教諭 「より多くの交流の場を」 長屋昌治

今回、愛鳥教育研究会の総会に出席して、一番印象に残ったのは福生第五小学校の発表でした。各教科・特別活動・道徳教育の各分野にわたってきめ細かい指導がなされ、学校全体で愛鳥教育に熱心に取り組んでいる様子がよくわかりました。とくに、全校観察会の運営方法、個人文集の作成方法等は、大変参考になりました。また、子供達が生き生きとして活動している様子は、15年の歴史の上に成り立っているとはいえずらやましく思えました。

私が勤務する学校も愛鳥モデル校ですが、指定を受けてからまだ2年目の学校で、活動も手探りの状態です。(1)鳥を通して自然に興味を持たせる。(2)自然を正しく理解させる。(3)自然を保護する気持ちを育てる。を目標にして、初年度は、児童朝会での話・身近な野鳥の観察・巣箱作り及び巣箱掛け・愛鳥ポスターの作成等を行いました。しかし、技術的にも未熟で、教職員の対応も不慣れな

ため、野鳥について学習したり、観察する機会が少なく、子供達の多くは野鳥についてあまり興味関心を示しませんでした。今年度は、このことを反省し、野鳥のビデオを利用したり、鳥に関するお知らせを出したり、巣から落ちたひなの対策を考えさせたりして、興味関心を高めるための活動を中心に行っています。また、2学期からは校庭の隅に野鳥園が完成したので、ここを利用して野鳥観察を行っていこうと思っています。今後は、これらの活動をもとに自然を保護する活動へと発展させていきたいと思っています。

愛鳥教育研究会でも、より多くの学校の様子を紹介し、集って意見の交換ができる場を多く作ってほしいと思います。また、愛鳥モデル校に限らず一般校でもできる活動も紹介し、愛鳥教育を多くの学校に普及させて、より多くの子供達に自然の素晴らしさを伝えてほしいと思います。

——総会に参加して——

「ますます必要となる愛鳥教育」

鳥類保護連盟会員

中山辰夫

秋から冬にかけてオカヨシガモやミコアイサなど多数の水鳥たちでにぎわう手賀沼のほとりに今回の総会の会場である山階鳥類研究所があります。

私は手賀沼へは何度か探鳥会で来ていましたが研究所を訪れるのは今回が初めてで、緑の木々にかこまれた中の赤レンガと大きなガラス窓のしゃれた2階建の建物はひととき目を引きました。

午後1時30分すぎ連盟事務局の杉浦さんの司会で総会は始まりました。総会は終始なごやかに進められ、提案事項はすべて了承されました。その後、福生市立福生第五小学校の研究発表があり、今後の実践に大変参考になりました。時間が足りなくて十分に聞けなかったのが残念でした。

総会も無事終了し、その後山階鳥類研究所の研究室を見学しました。山階鳥類研究所は、国内で唯一の鳥類の総合研究施設で、東京都渋谷区南平台町で52年間続いた「山階鳥類標本館」が昨年11月にこの地へ移転してきたものです。

まず文献図書等がある書庫に案内していただきました。ここには、19世紀以降の内外の鳥類関係の学術誌が豊富に取りそろえられていますし(約1万7千冊)、1875年から13年かけて英国で出版された「ニューギニア鳥類史」全5巻や、1861年出版の「カルピの英国鳥類図史・水鳥編」などの豪華本がぎっしりとおさまられていました。図書の貸し出しは行っていないとのことですが、閲覧やコピーを取ることはできるそうです。となりの閲覧室では内山さんが、ウグイスのバードカービングを製作中でした。標本を参考にして体長等をはかり、そのデータを使って作り上げるそうです。着色されたウグイスは生き生きとしており、いまにも飛び立つのではと思えるようなすばらしい出来ばえでした。

次は標本室の見学です。冷房除湿装置が完備された室は約300平方メートルあり、その中に保存用のたんすがぎっしりと並べられており、壁際のケースにもはく製や骨・卵の標本がいっぱいでした。

明治20年宮古島で発見されたカワセミの一種で

世界に一つしかない「ミヤコショウビン」の標本や「カンムリツクシガモ」の一对の標本。また昭和56年沖縄で発見され話題になった「ヤンバルクイナ」の標本など世界的に貴重な標本も見せていただきました。

かつてアメリカ大陸の空を真黒にうめつくしその数50億羽といわれた「リョコウバト」も1914年9月1日シンシナチ動物園で最後の一羽「マーサ」が死亡し絶滅した。その後も他のいろいろな種が絶滅又は絶滅の危機に瀕しています。いま日本でもたったの3羽になってしまい絶滅が懸念されている「トキ」があります。

このような貴重な鳥たちの標本を見ながらふと、その昔緑の地球を自由にとびまわっていたであろう頃の鳥たちの姿を思いうかべ、今日では生きて本来の姿の彼等と出会うことの出来ないことが非常に残念に思われるのでした。

種の絶滅、このような悲しい出来ごとを今後再びくりかえしてはなりません。そのためにも、自然や生命を大切にする気持をつちかう充実した愛鳥教育がますます必要となることと思われまふ。今回の総会に出席し、その感を強くしました。

今までは、名前だけの会員でしたが、これからは地域での活動やその他の機会を通じて愛鳥教育の輪を広げていきたいと思ひます。全国のみなさん、お互いがんばりましよう。

最後に総会の開催にお骨おりにいただいた連盟の柳沢さんをはじめ理事の方々及び見学で大変お世話になりました山階鳥類研究所のみなさま方に厚く御礼申し上げます。

中国遼寧省の愛鳥教育 2, 3 の見聞

日本鳥類保護連盟理事

飯村 武

神奈川県立自然保護センター所長

はじめに

“愛鳥周活動”…日本の言葉では“愛鳥週間行事”となります。中国の遼寧省では4月22日から同28日までを愛鳥周と定めており、今年は第4回になります。私は1985年（昭和60年）4月20日から同27日まで遼寧省野生動物保護協会の招きで、この愛鳥周活動に出席しました。典礼出席が直接の目的でしたが、出席の過程で所管行政担当者から断片的ですが愛鳥教育についても聞くことが出来ましたので、その様子を取りまとめておきます。

1. 野生動物保護協会

遼寧省における野生動物の保護行政は林業庁(日本の都道府県農林部に相当)が所管しています。遼寧省野生動物保護協会(以下保護協会)は鳥類資源を培養し発展させるための大衆組織で、保護の広報、教育活動及び学習、研究、学術交流、日中渡り鳥協定の推進を政府に協力すること、滅亡に瀕している鳥獣類の保護を世界に呼びかけ援助を願うことなどを任務としております。もちろん愛鳥周活動の主催者はこの保護協会で、会員は約1万人です。

2. 学校における愛鳥教育

中国には、いまのところ義務教育といったかたい制度はありません。小学校の就学率は93%、中学校は初級3年、高級2年で、ここまでの卒業者は知識青年と呼ばれています。

さて、鳥類が害虫獣防除に役立っていることは広く知られており、鳥類保護思想形成の基本をなしています。中国では鳥類のこのような役割を経済的視点で捉え、経済鳥類と呼んでおります。日本でいう益鳥のことで、この経済性を強調することによって鳥類保護の推進を図っています。例えば動物園や自然科学博物館では経済鳥類とその役割を図にして展示し、わかりやすく説明しています。また、経済鳥類図鑑なども出版されています。

鳥類の保護を進めるためには、まず鳥類保護の

教育が必要です。つまり愛鳥教育で、中国ではこれこそ鳥類保護推進の原動力と考えています。愛鳥教育の対象はもちろん子供たちです。子供は素直で鳥が大好きですから効果的に教育が進められ、実行出来るのです。この視点は日本も中国も全く同じだといえます。遼寧省では12歳の子供たち(小学生)を重点に愛鳥教育をしておりますが、これらの児童は12万人もいるということです。

また、鳥獣保護は子供と大人が協力して進めるところに意義があり、その場として小学校100校を野鳥保護の奨励校にしています。いわゆる日本の愛鳥モデル校です。子供たちの愛鳥活動は目標は次のとおりです。

- ア. 愛鳥記念林の造成。
- イ. 探鳥会の実施。
- ウ. 愛鳥のために一つよいことをする。
- エ. 愛鳥のお話を聞く。
- オ. 標本で鳥の勉強をする。
- カ. 愛鳥の歌をうたう。
- キ. 鳥の映画やスライドを見る。
- ク. 愛鳥のスローガンを貼る

なお、いま中国にすむ鳥獣類で一番大きく問題になっているのはパンダで、これを保護するため北京市でも瀋陽市でも主要送路の沿線にはパンダの像を配して保護活動を盛り上げようとしており、そのうえ瀋陽市では各所に鶴などの像を設置し、鳥類保護の関心をも高める配慮がなされていました。

3. 愛鳥周活動

1) 典礼

1985年4月23日午前9時から、遼寧大廈講堂において第4回愛鳥周の開幕式が行われました(図1)、その次第は次のとおりでした。

- ア. 張紹賢保護協会副会長開会宣言
- イ. 孫奇遼寧省副省長あいさつ
- ウ. 鳥類保護功績者108人を遼寧省が表彰
- エ. 長洲一二神奈川県知事署名入りの鳥類関係

図書2冊を保護協会に贈呈

オ. 来賓祝辞

カ. 保護協会からの招待者に「書」の贈呈

保護協会への図書贈呈に続き、私も祝辞を述べました。主旨は互いに手を取り合って愛鳥の夢を育もうというものです。この式には保護協会会員のほか12歳の児童120名も参加しました。開式前、素朴ではあるが可愛らしく着飾った少女たちが来賓の私たちに茶を入れてくれたり、胸に愛鳥周の記事をつけてくれたり、このときには中国にきて本当によかったと思ひ、暖かいものが胸にこみあげてきました。その感動は今もなお私の胸に続いています。

式終了後は皆んなで遼寧大廈の広場に出て色とりどりの風船と平和のハトを放翔し(図2)、閉式となりました。孫奇先生はこれから北京市で開かれる会議に出席しなければならないので、これで失礼しますと手を振りながら去って行きましたが、その後姿には愛鳥の夢が描かれていました。

2) 百鳥公園の再建

瀋陽市皇姑区人民政府の今日の最も大きな課題は、遼寧大学の南側にある百鳥公園の再建です。

百鳥とは日本人の名前で、この人がかつて私財を投じて公園を作りましたが、文化大革命のときに徹底的に破壊されたとのことです。面積は13haあって、これを野鳥の誘致公園として再建し、中に博物館や研究室も作って子供たちの愛鳥教育のメッカにしたい計画で、その再建には是非日本の友人の技術的援助をお願いしたいとのことなのです。4月25日には再建の第1回の会議が区人民政府会議室で開催され、私も出席して日本で行っている野鳥誘致の技術的方法を紹介しました。この会議には区長以下財政局長、建設局長など区政府の要人、保護協会の役員、大学の関係教師、鉄道関係者、報道機関など約40名が出席して行われましたが、区政府の愛鳥教育の土台づくりの意気込みは大したもの、私はその熱意に押され、再建の技術援助の継続を約束しました。

3) 野生動物保護の報告会

4月24日の午後、瀋陽治錬会館で野生動物保護の報告会が行われ、私も出席しました。瀋陽市野生動物保護協会の主催で、参加者は子供たちとその母親1,000名。遼寧大学の対明玉先生(生態学)により野生保護の必要性和方法の解説が行わ



図1. 第4回「愛鳥周」活動大会会場(遼寧大廈)

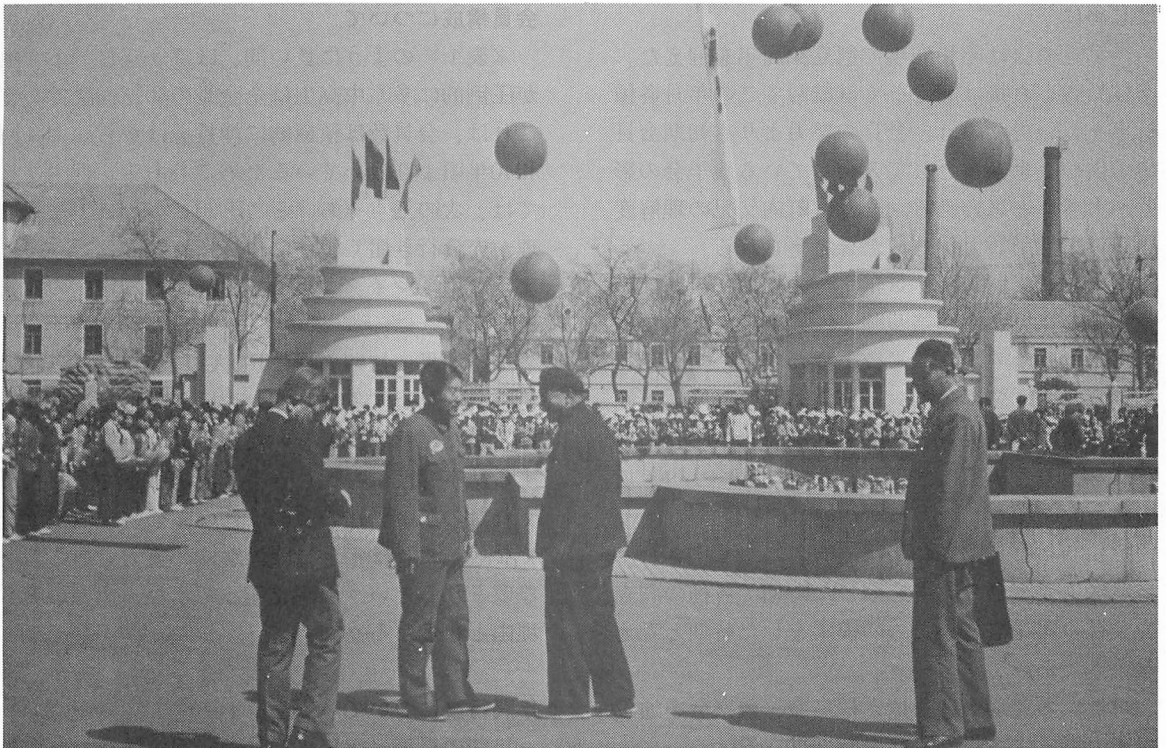


図2. 愛鳥周参加の子供たちにより風船と平和のハトの放翔
手前右から2入目が孫奇遼寧省副省長、3入目が張新村保護協会名誉会長

れ、続いて「野鳥の楽園」及び「カササギ（カラス科）の生態と経済的利用（害虫防除）」の映画が上映され、参加した子供とその母親たちを楽しませました。

中国においても、家庭教育はもっぱら母親の仕事で、この報告会への参加の状況から推して、今や愛鳥教育は学校ばかりでなく家庭の中でも行われている印象を受けました。

むすびにかえて—遼寧省の提言—

このたびの愛鳥周活動において、鳥類保護の国際的協力を確かなものにするため、遼寧省から神奈川県へいくつかの提案がなされました。それは百鳥公園再建の技術的な指導助言、鳥類の環志（バンディング）調査の促進、保護技術の交流などで

すが、これらの中には愛鳥教育も1項目を占めています。すなわち、小学校、中学校、大学の愛鳥姉妹校の締結です。前述のとおり遼寧省には愛鳥奨励校が100校指定されております。当然、日本（神奈川県）の愛鳥モデル校を想定しての提言です。

愛鳥教育が日本の教育界で素晴らしい成果を収めていることは明らかなことです。今後は学校教育の中に愛鳥教育を定着させ、その輪を国際的にも広めること、これが私たちの願いであるといえましょう。幸いにも学校相互の条件が整って姉妹校の締結が実現すれば、これはおそらく子供たちに国際的な夢を培って愛鳥教育を不動のものにし、新たな展開を約束して教育全般の大きな力になってゆくものと信じます。

民間愛鳥教育の行方

宮城県志津川愛鳥会・

志津川愛鳥会 田中完一
小塊雅之

昭和58年、昭和59年の行事内容を中心に

はじめに

「私達の会は昭和58年で創立30周年を迎えた。学校教育と直接は関係なく継続してこの年月各種行事を行い得たのは、会員の努力よりも初期会員の子供が2世会員として入会している親子会の影響が大きいと思われる。また、町内父兄の理解度の高い事も影響力があったと考えられる。

昭和28年より昭和38年までの初期10年間は児童生徒の托児所的性格が強く、娯楽テレビのない会員の拠り所であり、学校よりの「はじき出され」児童生徒の「公園」であった。この期間には「チリ地震津波」が全会員の家庭を破壊したので会の存在はかえって極度に強調された時期というべきであろう。

昭和39年より昭和48年は「有名になりすぎた」自然保護児童会の充実を期した時期で各種の調査や会員の興味倍増のための模索をした時期と考えるべきであろう。

対外への働きかけを控え探鳥会・観察会を通して実力養成に主眼を置いた時期である。

昭和49年より昭和59年までは町内のOB会員を指導者とするための各種の努力をした時期で、OBのための勉強会・研修会をとり入れ、OBと会員の結びつきを利用して再結集を期した時期であろう。職域の広いOB会員が自分の子供も含めた会員児童生徒のために献身している。そのためこの会もとだえる事なく細々と永続してゆくものと考えている。

ただし、父兄の考えはこの30年間めまぐるしく変化した。初期の「無関心」より中期の「期待」へ発展し、現在は私達の会は「塾」と見做されているようだ。「塾」でないことを強調しても行事内容が塾的にならざるを得ない現状に頭を悩ましているのが実状であろうか。

会員層は小学一年生より高校三年までで、初期の部落毎のグループ化は大変有効に作用したが現在は年令毎のグループ化が生じ指導者の対応が困難になりつつある。

会員構成について

〈表1〉のように長い間、ほぼ安定して小学生が圧倒的に多く中高生は全会員の30%程度である。これは、会員数は積極的に増員をはからぬよう昭和40年頃より改めているためでもある。理由としては、次の三点をあげることができる。①監督管理が充分行き届くように。②指導が充分行き届くように。③マイクロバスで移動できる程度の人員となるように。

その結果、初期の様に100人以上の会員移動に父兄全員を動員するというおおげさな事は最近はない。また、「年少者をいたわる事は自然保護に対する基本態度にも通じる事」が子供達も実感してくれたのか、私達の会には「いじめ」の現象は全くない。これは年令に関係なく「実力」ある者が尊敬されるという風潮を守って来た、その事実も理由となるだろう。

年間行事について

年間の行事は毎年平均して60回前後持たれている。昭和58年の行事回数の多いのはこの会の30周年行事が行われたためである。

「例会」

冬は午後5時より7時まで、夏は午後6時より7時まで、毎週日曜日の晩集まり、出席をとり次の様な行事を行うのが例会である

- ①観察手帳の点検、指導、優良者の発表。
- ②季節の野鳥説明と個人探鳥会の報告
- ③「会の歌」合唱とリクリエーション。
- ④次回行事の説明と連絡。
- ⑤スライド映写。

などであるが熱心に来る会員の児童生徒を見るにつけ、成功を実感している。

「調査」

これは毎年春秋行われるシギとチドリの全国調査に参加し探鳥会を兼ねて海岸で朝食をとる行事である。ポイントとなる海岸へはOB・会員の車で運ぶ事になっていてバスは使用しない。

「探鳥会」

これは随時各個人が行っている個人探鳥会でなく、会として企画された探鳥会の事である。

- ①ふるさと探鳥会：毎月第1日曜日早朝町内で行われる探鳥会でOB会員が交互に責任者となって行なっている。
- ②送別探鳥会：中学卒業生だけの一泊探鳥会で高等学校進学後もこの会にとどまるよう誓わせる企画である。

「その他」

- ①反省会：年間行事参加数を点数に換えて発表し、賞状が授与される会である。
- ②その他有志の懇談会、早朝の「飯ごう炊さん会」等で全員を対象とした時のみ出席を取る事が約束されている。この他に年に2回位、バスを利用した探鳥旅行が行われ博物館の見学や伊豆沼の探鳥会などが企画実行されている。

行事参加人員について

〈表3〉について見られるように冬季は行事参加者多く夏季は少ない。これは夏季になると学校行事が多く、特に中学生の「部活」校外活動が多くなり、中学生も「少年野球」系の部落活動が激しくなるために欠席者が激増するからである。夏祭りの時期は極端に欠席者が多いのも最近の傾向であるが、この会の初期における托児所的役割は現在完全に消滅しているからである。年間のべ参加人員はほぼ1400人から1100人でここ10年間はこの推移をたどっている。

つまり、学校行事と父兄の希望する塾通いや部落行事の合間をぬって志津川愛鳥会の企画が行われているといっても過言ではない。志津川愛鳥会の理想としてかかげた教育の「公園」は時代の移り変りのうちに侵略されせばめられ、一部の自ら求めて飛びこんでくる少年達のささやかなグループ化したものと考えべきだろう。それは学校教育からの「はじき出され」児童生徒か、学校教育にあきたらない最優秀の児童生徒かの両極端の集団であることに意味があると自覚している指導部のOB会員と私だけのうぬばれなのかもしれない。

つまり、学校行事と父兄の希望する塾通いや部落行事の合間をぬって志津川愛鳥会の企画が行われているといっても過言ではない。志津川愛鳥会の理想としてかかげた教育の「公園」は時代の移り変りのうちに侵略されせばめられ、一部の自ら求めて飛びこんでくる少年達のささやかなグループ化したものと考えべきだろう。それは学校教育からの「はじき出され」児童生徒か、学校教育にあきたらない最優秀の児童生徒かの両極端の集団であることに意味があると自覚している指導部のOB会員と私だけのうぬばれなのかもしれない。

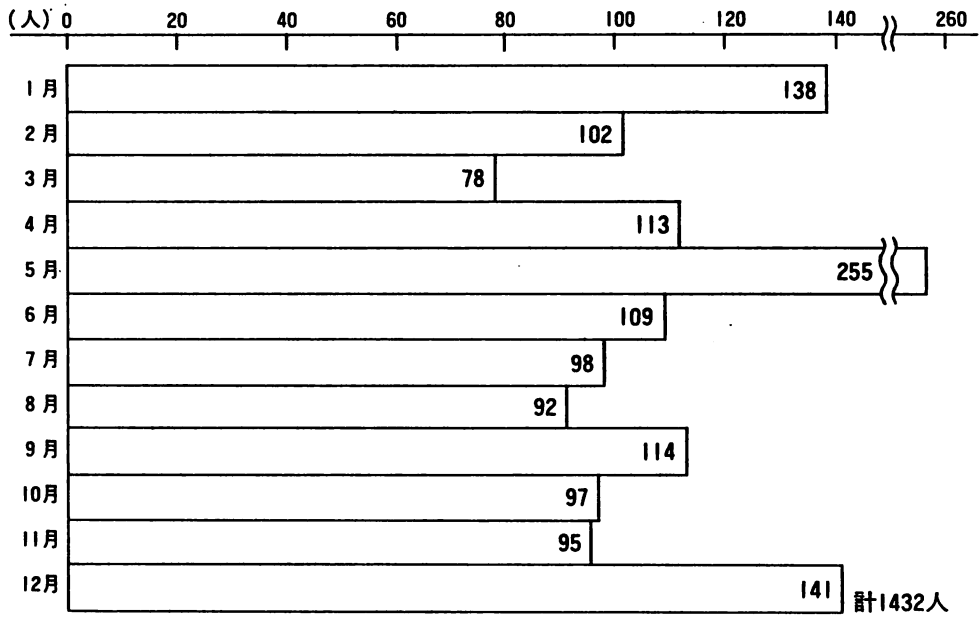
〈表1〉 志津川愛鳥会小中学高生の人数

年度 \ 学生	小学生	中学生	高校生	合計
58年	25人	7人	3人	35人
59年	24人	11人	2人	37人

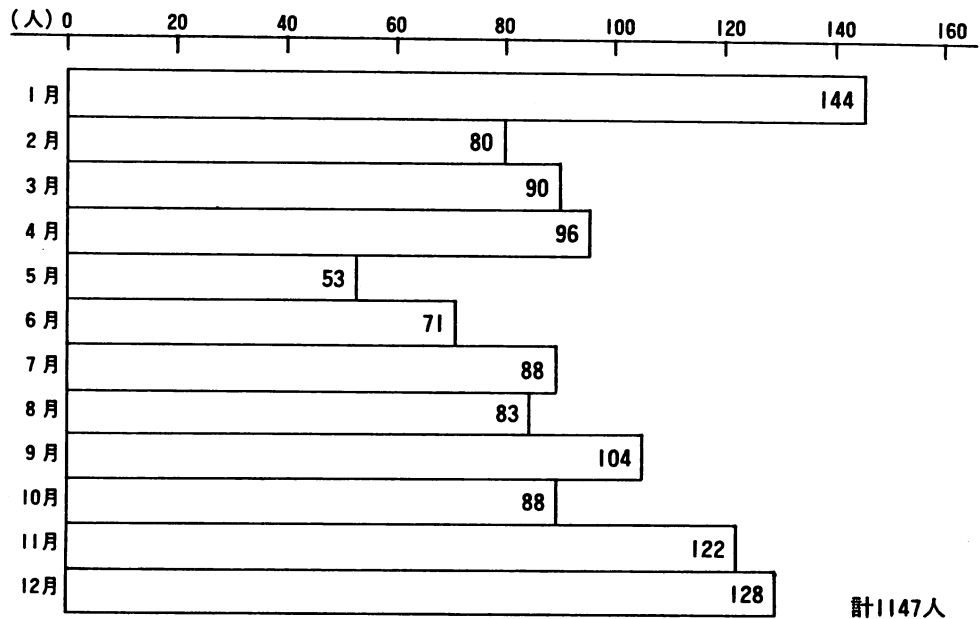
〈表2〉 志津川愛鳥会年間行事回数

年度 \ 行事	例会	調査	探鳥会	その他	計
58年	36回	2回	18回	10回	66回
59年	36回	2回	18回	6回	57回

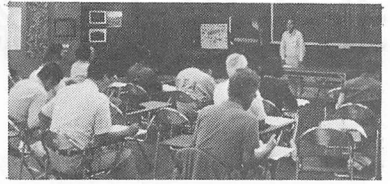
<表3> ① 行事参加人員表 (昭和58年)



<表3> ② 行事参加人員表 (昭和59年)



静岡県支部結成のお知らせ



愛鳥教育研究会静岡県支部が、去る8月6日静岡市井川県民の森にて「第14回愛鳥校のつどい」開催を機に、結成の運びとなりました。

愛鳥教育研究会からは、田村活三会長・杉浦嘉雄連盟愛鳥教育担当が出席致しました。また、愛鳥教育研究会理事でもあられる柴田敏隆先生の講演「愛鳥教育活動のすすめかた」がありました。

支部発足会は滞りなく終わり、次のように役員及び規約が決まりました。

支部長	風間 源氏	中川根町立中川根南部小学校勤務
副支部長	久保田顕弘	清水市立有度第二小学校勤務
幹事	阿部 英雄 西村 健一	静岡県野鳥愛護協会 金谷町立金谷小学校勤務
	田代 猛	川根町立川根小学校勤務
監査	影山 秀雄 村松 源一	静岡県野鳥愛護協会 静岡県野鳥愛護協会
事務局	〒428-01	榛原郡本川根町藤川 1120-2 風間 源氏方

愛鳥教育研究会静岡県支部規約

第1条 名称及び事務局

本会は、愛鳥教育研究会静岡県支部と称し、事務局を支部長の所在地におく。

第2条 目的

本会は、児童・生徒に野鳥を通して自然に親しみ、豊かな心情を養うため、愛鳥思想の普及ならびにその実践及び諸問題の研究を行い、愛鳥教育の振興を図ることを目的とする。

第3条 事業

本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

1. 本部と連絡を密にとりながら、支部会員相互の研修交流
2. 地域に密着した愛鳥教育の実践

3. 愛鳥教育の内容及び技術の研究

4. 愛鳥教育普及のための活動

5. その他、愛鳥教育に必要な事項

第4条 会員

本会は、静岡県内に在住又は所在する愛鳥教育研究会の会員をもって構成する。

第5条 役員

本会に、次の役員をおき、それぞれの職務を担当する。

1. 支部長 1名 支部を代表する。
2. 副支部長 1名 支部長を補佐し、支部長に事故あるときは、これを代行する。
3. 幹事 若干名 会務を分担し、会の運営にあたる。
4. 監査 2名 会務及び経理を監査する。
5. 本会に、顧問、参与をおくことができる。これは、支部長が委嘱する。顧問、参与は、支部長の諮問に答える。
6. 役員は、総会において選出する。任期は2年とする。再任を妨げない。

第6条 会議

会議は次のとおりとし、支部長が招集する。

1. 総会は、毎年一回開催し、会の運営及び事業の執行、役員を選任等全般について審議する。
2. 役員会は、必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第7条 会計

1. 本会の経費は、会員の会費、その他をもってあてる。
2. 本会の会費は、年額3000円とする。但し、本部会費2000円をふくむ。
3. 本会の会計年度は、毎年4月1日にはじまり、翌年3月31日に終わる。

第8条 付則

この会則は昭和60年8月6日より発効する。

北海道支部総会開かれる

今年の1月26日に北海道支部が発足し、活動を始めています。そして去る9月28日、北海道婦人文化会館にて、昭和60年度北海道支部総会が開催されました。支部会報「愛鳥教研—北海道—」第2号にその内容が報告されています。

静岡県支部の規約と共に、今後の支部結成・支部運営の方法・在り方等を検討するための資料として、以下に再録します。

なお北海道支部規約は「愛鳥教育」No.15に掲載されています。

昭和60年度総会報告

と き 昭和60年9月28日(土) 14時～16時

ところ 北海道婦人文化会館

支部長挨拶のあと、梶浦幹事を議長に選出し、審議がすすめられ、原案どおりきまりましたので、報告します。

◎59年度 事業報告

- ・支部設立総会

- ・研修探鳥会・意見交換会
- ・愛鳥懇話会出席
- ・全国野鳥保護のつどい参加
- ・会員加入呼びかけ
- ・支部報発行
- ・「おおい北海道」参加
- ・本部総会出席

◎60年度 事業計画

- ・研修探鳥会(野幌森林公園11月)
- ・意見文換会(冬鳥の観察・給餌活動等12月)
- ・支部報発行(2回)
- ・会員実践記録集作成

◎役員改選

- ・監事 北出俊夫氏病気のため、北村孝悦氏
- ・幹事 塚原英代さん増員
- 支部長 柳沢 信雄 幹事 霜村 耕一
- 副支部長 水崎 満 " 塚原 英代
- 幹事 梶浦 孝純 監事 渡辺 照彦
- " 伊藤 幸雄 " 北村 孝悦

○59年度 決算

○60年度 予算

		予 算	決 算	摘 要	予 算	摘 要
収	繰 越 金				260	
入	会 費	20,000	15,500	81名分	30,000	60名
	計	20,000	15,500		30,260	
支	総 会 費	8,000	10,200	会場費・案内状	8,000	
	支 部 報	10,000	3,780	発送費	8,000	(2回)
	実践記録集				12,000	(付、会員名簿)
出	雑 費	2,000	1,260	ゴム印	2,260	
	計	20,000	15,240	(残、260)	30,260	

常務理事会報告

去る9月21日(土)午後2時～4時半まで連盟事務局にて常務理事会が開かれました。

議題は以下のようでした。

- ①「愛鳥教育」No.17の割つけについて

- ②冬の研修会について

- ③実績発表大会のお知らせ、その他について

②については、1月26日(日)多摩川探鳥会に決まりました。詳細は18ページをご覧ください。

—岡 董高氏に聞く—

「声のブッポウソウと 姿のブッポウソウ」

野鳥研究の先輩、「岡 董高氏」のお話



私の故郷は、秩父多摩国立公園内の山梨県塩山市(旧大藤村)です。富士山、南アルプスの山々源次郎岳、大菩薩峠、乾徳山、雲取山に囲まれ、私の家は塩山駅から峠寄りに2.5km離れていました。市名の起りは、市の中央に塩の山があったので、「塩山市」となったのですが、南側には温泉もあって、湯治客や、大菩薩峠の登山者で、四季にぎわっていました。なお往時の桑園は、桃園と葡萄園に変わり、文豪徳富蘇峰は、これを「葡陵桃源郷」と名付けています。

山梨県は、全体に野鳥が多いのですが、特にフクロウ類、ワシタカ類が多く、あの著名な甲州の名将武田信玄の、高野山の信玄像の右には、ハヤブサの成鳥がはっきり描かれています。

明治の女流文学者樋口一葉の両親は、大藤村の生まれでしたが、私の生家から200m程の所にある、「慈雲寺」の境内の木立ちの中に、一葉女史の碑があります。そしてこの附近は、樹木が多く「ブッポウソウ」と鳴く鳥の声がよく聞こえている所でした。

私は、少年時代から、鳥の絵や、人物画や、武者絵などを描くのが好きでしたが、特にミミズクをよく描きました。そしてその時、オオコノハズクは、折々見かけるが、コノハズクは少ないと感じていました。しかし当時は、このコノハズクがまさか「ブッポウソウ」と鳴く鳥とは夢にも思っていないませんでした。

大正13年の正月7日のたそがれ時のことでした。私は、小さなミミズクを、クルミの木のくちた穴の中に見つけました。今でもありありと目に浮かびますが、金色の目を輝かせている、とてもかわいらしいミミズクでした。そしてこれを見たことから、鳥を研究し画を描く私の人生行路があとで決まってしまうようなことになりました。

ところで、「ブッポウソウ」と呼ばれている鳥が、「ブッポウソウ」と鳴くということに、当時はなっていました。

昭和10年のことです。山梨県庁に「鳥のおじさ

ん」と呼ばれていた、中村幸雄先生がおられました。中村先生は、「ブッポウソウ」と呼ばれている鳥が「ブッポウソウ」と鳴くのではなく、「ブッポウソウ」と鳴くのは「コノハズク」と確認されておりました。そこでこの「コノハズク」が「ブッポウソウ」と鳴くことを、日本鳥学会に報告し、公認されるために、学術免許を受けて、鳴いている「コノハズク」を1羽採集することになりました。中村先生は、木の根を枕に野宿をしたりしてコノハズクのあとを追い、40日目の夕方出会うことができました。その日が昭和10年6月12日で、場所は御坂山系の神座山松峰神社近くでした。その場所は、トチの木が茂って、清楚な白い花が咲いていました。今まさに暮れなんとする時、トチの木の枝から黒い小さなかたまりが飛び、外の枝にとまり、「ブッポウソウ、ブッポウソウ」と二声鳴きましたので、その瞬間にこれを採集しました。そしてそれは正真正銘「コノハズク」だったのでした。

このことは当時新聞に「学説はくつがえされた」「千年のなぞは解決した。」というふうには書かれました。そしてこのことから渡辺伸一郎氏の案で、「コノハズク」は「声のブッポウソウ」と呼ばれ、従来の「ブッポウソウ」は「姿のブッポウソウ」と言われるようになりました。(以下次号へ続く。)

岡董高氏は、元日本野鳥の会奥多摩支部長、現日本鳥学会維持会員として野鳥の保護、研究を実践されている大先輩です。

また氏は洋画家で、日本芸術家協会委員、国際美術家協会運営委員としてご活躍になっています。二科会で「ブッポウソウと鳴く鳥」の絵が入選され、日美展で人物画2点特選、国美展で風景画優秀賞、人物画秀作賞、奨励賞、タカの飛翔の絵は、日本芸術家協会奨励賞等、30点を越える入選作をお持ちです。

(愛鳥教育研究会常務理事 下田澄子 記)

冬期研修会のお知らせ

昨年は、明治神宮で主に山野の野鳥を観察しました。今年度は水辺の野鳥を中心に、東京都の多摩川でバードウォッチングを楽しみたいと思っています。

初心者の人にも観察しやすいカモを中心にみます。また、お弁当の時間に、野外カード等野外実習の仕方も紹介しますので、ぜひご参加ください。

とき : 昭和61年1月26日(日)午前10:30~午後3:00

ところ: 多摩川 (二子玉川園~和泉多摩川)

集合 : 午前10時30分、新玉川線二子玉川園駅改札口前に集合

開散 : 午後3時頃、小田急線と泉多摩川駅前にて開散予定

その他: 持ちものは、お弁当と筆記用具。できれば携帯用図鑑と双眼鏡。

服装はハイキング程度。お子様の参加おおいに歓迎。ただし保護者同伴のこと。

※参加者のなかで野外で工夫した教材があればお互いに持ちよりませんか。

第20回全国鳥獣保護実績発表大会

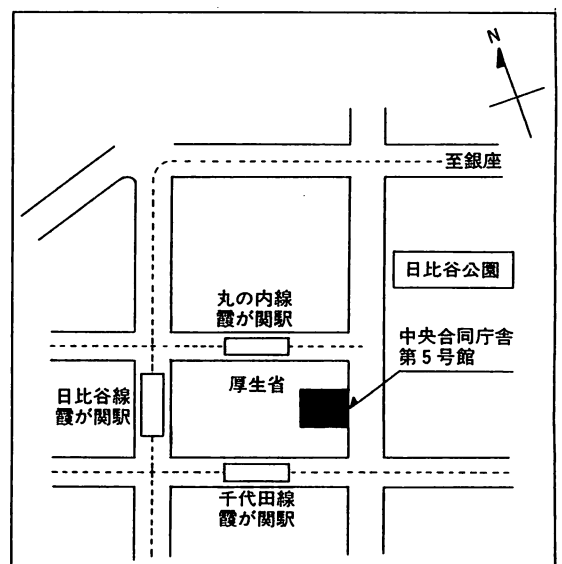
環境庁・(財)日本鳥類保護連盟主催、文部省・林野庁後援「全国鳥獣保護実績発表大会」が下記の通り開催されます。

書類審査で選ばれた愛鳥教育先進校9校が発表します。厳正な審査の結果、「環境庁長官賞」「文部大臣賞」「林野庁長官賞」「連盟会長賞」等の表彰がなされます。

今年は「小鳥がさえずる森づくり」運動の発表とその表彰式も組み入れています。さらに、「愛鳥週間ポスター原画」の各賞決定の公表なども盛りだくさんです。ぜひ、お気軽にご参加ください。

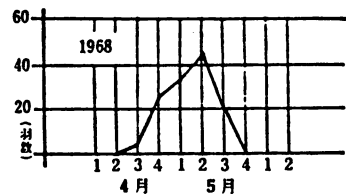
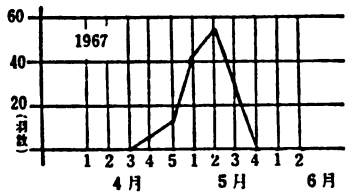
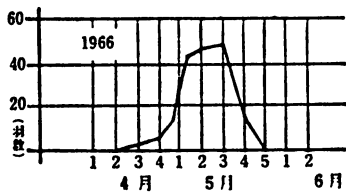
とき : 昭和60年12月18日(水)午前10:00~午後4:30

ところ: 環境庁中央合同庁舎第5号館2階講堂
住所 : 千代田区霞が関1-2-2



———おわびと訂正———

表3 アオアシシギ春期の渡来曲線
(千葉県新浜)



(各月の上の数字は、日曜日の順番を示す)

1. 「愛鳥教育」16号：19ページ「身近でできる野鳥の観察」の「表3」が抜けていました。おわびいたします。
2. 「愛鳥教育」16号：5ページ右上のイラストの作者は、中村昌義氏です。つつしんでおわび訂正いたします。

———編集後記———

多くの方々からの投稿ありがとうございます。
 実は、今号の「民間愛鳥教育の行方」(田中完一先生小塊雅之氏)の原稿も、奇しくも田中先生が他界される三ヶ月前に投稿されたものでした。
 原稿を読むにつれ、先生がご指導された「志津川愛鳥会」の人々の手作りの表やグラフをはじめこの会の温かさが伝わってくるようでした。また、

民間愛鳥教育を充実させるには、これだけの努力と実践をしなければならないのかと驚かされた次第です。
 30年の歴史の重みを内に含めたこの会が、これからも積極的に活動できることを祈らずにはいられませんでした。
 (杉浦)



JAPB field shop

◎ぜひ、「愛鳥教育」の教材 に、ご利用下さい。



・野鳥図鑑
定価2,200円 送料250円
B 6 変型 340ページ



・野生鳥類の保護
定価1,800円 送料250円
B 6 版 380ページ



・カセットテープ—野鳥をききに—
定価1,300円 送料240円
(30分)



●鳥たちのビデオ (全10巻、各巻30分)

- No. 1 野鳥と仲よく
- No. 2 バードウォッチング—森①—
- No. 3 バードウォッチング—水辺①—
- No. 4 バードウォッチング—草原・湿原—
- No. 5 バードウォッチング—海—
- No. 6 バードウォッチング—人里—
- No. 7 バードウォッチング—森②—
- No. 8 バードウォッチング—水辺②—
- No. 9 特別天然記念物
- No. 10 野鳥の四季

特別割引価格 VHS 59,000円
ベータ57,000円

(送料込み。分売もします。
一般価格は全10巻ケース付
89,000円です。)

・日本の鳥類と其生態

全2巻

会長・山階芳麿の不朽の名著
待望の全2巻復刻版—挙刊行
著・山階芳麿
総発売元・株冬至書房新社
発行・株出版科学総合研究所
全2巻セット揃
定価38,000円 送料込み
詳しいパンフレットをご希望
の方は連盟事務局までご連絡
ください。

お申し込みは—

- 現金書留、郵便振替または切手などでお申し込みください。
- 事務所へ直接おこしになる場合は、在庫の有無を電話で確認してからおこしてください。

(財)日本鳥類保護連盟

JAPB

Japanese Association for Preservation of Birds

〒150 渋谷区宇田川町37-10

渋谷レジデンシャルオフィス405

Tel 03(465)8601 振替・東京 5-19214